

リウマチ・膠原病だより

東広島記念病院 リウマチ・膠原病センター

広島生活習慣病健診センター

医療法人（社団）ヤマナ会

東広島記念病院 広報誌

Vol. 2 No. 2

発行日 2009年 4月 21日

創刊日 2008年 4月 21日



理念

1. 私共は医道を尊び、規律を守り社会的責務にこたえます。
2. 私共は常に研鑽し信頼される病院を創ります。
3. 私共は安全な医療を提供出来る病院をめざします。

患者憲章

1. 尊厳を保つ医療を受ける権利を有します。
2. 納得出来る説明と情報を受ける権利を有します。
3. 十分な情報提供下で治療方針を選択する権利を有します。
4. 医療機関を自由に選択出来る権利を有します。



駐車場隅の小庭

Contents

■リウマチ・膠原病情報

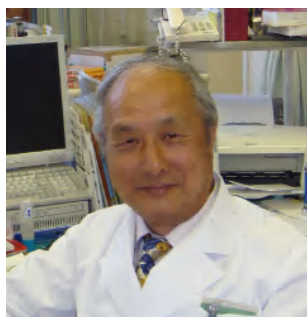
関節リウマチ治療に対し、生物学的製剤を如何に使うべきか
東広島記念病院リウマチ・膠原病センター 理事長 山名 征三

■部署紹介 リハビリテーション科 新藤 華子

■病院からのお知らせ 婦人科診察

身体障害者手帳申請等の計測と装具
平成 21 年入社式

関節リウマチ治療に対し、生物学的製剤を如何に使うべきか



東広島記念病院
リウマチ・膠原病センター
理事長 山名 征三

3月の末、当院の久外来師長が新潟県立リウマチセンターへ招聘され、comedicalの立場で生物製剤投与時の注意点について話す機会を得た。センター長の村澤章先生は私の長年の友人でもあるが、開口一番、あなたの病院は生物製剤を20-30%? それとも、もっと使っているのですかと聞かれたという。師長は私のところは生物製剤に関して、我が国で最も早くから関わってきましたが、未だ7-8%に止まっています。しかし、患者の満足度は極めて高い(QOLがいい)ですよと答えたという。急に雰囲気や和んで、講演会はdoctorを含めて活発な討議が行われたという。

最近では生物製剤の講演をされる先生方は、50%以上の使用を競っているかの如き講演をされることが多い。私はその都度、何故そんな必要があるのか、また、そうしなければならない必然性があるのか考え込んでしまう。私の8年間の生物製剤使用の経験をもとに、第一線の医療機関におけるその適用について私見を述べてみたい。

生物製剤は今や4剤時代を迎えている。その効果は素晴らしく、骨破壊を抑制、阻止し、再生すら促す。その結果、人類の歴史始まって以来、難病中の難病と考えられてきた関節リウマチが現在では並の病気に格下げされつつあるのが現状である。しかし、2003年のTNF α 阻害剤の発売以来6年が経過するが、MTX併用でもその寛解導入率は50%以下である。IL-6阻害剤を含めて次なる生物製剤が待たれるところである。生物製剤を使用する際はその影の部分も知った上で使わなければならない。強力な免疫抑制剤であり、感染症の危機が一挙に高まる。その感染は気道から肺に集中し、生命に関する肺炎・間質性肺炎を誘発する。MTXと併用されることでその発症率はさらに増加する。副作用が肺に始まって肺に終わるといわれる由縁である。

関節リウマチの治療は患部の安静、関節の可動域の保持とストレスの除去が基礎療法である。それにNSAIDs, 少量のステロイドホルモンが必須である。早期受診者は(window of opportunityにあたる)MTXを含む従来薬でも骨破壊の遅延は十分期待される。また monocyclic type か本来の軽症タイプかの識別もこの間にできる。我が国の患者は手がこわばる、何となく痛む、RF陽性、血縁にリウマチがいるな

どリウマチモドキのレベルから専門医を受診し、超早期受診が常態化している。このような患者はRAを発症しても良好なQOLへの導入は容易である。一方、生物製剤は骨破壊を遅延、阻止し破壊された一部の骨の再生により機能面の修復ひいては痛みを減退、消失させる力を有している“優れもの”である。このことは骨破壊が高度に進行し強い炎症を伴っている場合でも同様である。2008年2月の学会指針でエロジオンがあれば生物製剤を使ってよしいとの適用拡大がなされたが、エロジオンの進行、軽度の骨破壊など取るに足らない問題である。MTXを含む従来薬で患者のQOLが満足いくものであれば、多少の骨破壊は問題ではなく、関節の変形、機能障害につながる恐れが出た時点で生物製剤に対応すればいいとも言える。決して使い急ぐ必要はない。勿論、患者が希望し適用があればその限りではない。

私共は寝たきり寸前のムチランスレベルまで進行した活動の高い70歳代後半の症例にIL-6阻害剤を使用し、観劇が楽しめる状況にまで導入している症例などを多く経験している。20歳代でエロジオンを認めた軽症患者に生物製剤を使用、それからの50年間どうするのか。生物製剤の効果寿命は薬剤にもよるが一般に数年と短かく、脱落も多い。どのように使い続けるのか。生物製剤の combination therapy を行うのか。自然寛解する10-15%の monocyclic type をそのなかに含めたまま使い続けるのか。薬価は相変わらず高額である。医療経済学的に国民皆保険の破たん到我々自身が手を貸すことにもなる。生物製剤が使われ始めて我が国で約6年、欧米においても10年余りである。我々は患者を免疫不全状態で未知の世界へいざなっているということを忘れてはならない。これから我々に回答が与えられる。

新規の優れた生物製剤の開発は予想以上で、今まで述べたことは杞憂に過ぎなくなる時代が来るかも知れない。現時点では以上述べたごとく、生物製剤適用に対する考えは2極化している。生物製剤の特質を十分にわきまえて適用をケースバイケースで考える専門医が求められる。



職員食堂の中国近代絵画
黄永玉 作



部署紹介 リハビリテーション科

関節リウマチのリハビリテーション

理学療法士 新藤 華子

関節リウマチは全身の関節に炎症が起こり、痛みや腫れを伴い、身体の機能が低下していきます。治療中は関節の安静が基本ですが、関節可動域は保持せねばなりません。痛みがあるのになぜリハビリが必要なのでしょう？身体の機能が低下すると、日常生活に支障が出てきます。身体の機能を維持し日常生活を続けていくために、リハビリが必要になるのです。ただ特別な運動をするだけがリハビリではありません。自分でできることを続け、家事や仕事の合間に関節や筋肉を動かすことを習慣にしてみましょう。「日常生活の中で毎日適度な運動を続けること」これもリハビリになります！



また関節リウマチでは、装具や自助具・福祉用具などを上手に活用し、関節に負担をかけないことも大切です。

関節リウマチの症状や病気の進行は一人一人異なります。無理をすると症状が悪化することもありますので、ご自分の状態をよく理解し、ご自分だけで判断せず、まず主治医とよく相談し自分にあったリハビリを続けていきましょう。



皆様が今後もより良い生活を続けていくために少しでもお役に立てればと思いますので、お気軽に声をおかけください。

病院からのお知らせ

婦人科診察を始めました！！

- 担当医 高原 宏之 先生 広島大学医学部卒
- 診察日時 月・水・金曜日 午後14:30～17:30（予約制）
- ご予約 082-423-6661 お電話または外来受付にて、ご予約下さい。

身体障害者手帳申請等の計測と装具について

当院で身体障害者手帳等の申請や装具の作成などを行なっています。ご希望の方は、診察時に主治医へご相談下さい。どちらとも事前に主治医の指示と、予約が必要になります。

- 身体障害者手帳申請等の計測 毎週土曜日 午前中
- 装具の作成、相談 毎週土曜日 12:30～オーダーメイドまたはレディメイド

平成21年入社式

4月1日に入社式を行ないました。今年には病院部門、健診部門合わせて22名の職員が入社しました。放射線技師4名、臨床検査技師6名、保健師、看護師他、他業種からの転職者を含みます。



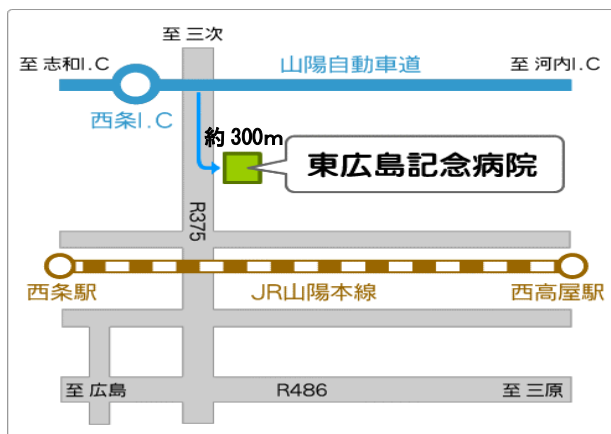
東広島記念病院リウマチ・膠原病センター 外来診療表

平成21年4月現在

		月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜
午前 8:45~12:30 【予約制】	1診	山名征三	金	山名征三	岩橋	山名征三	岩橋
	2診	岩橋	佐々木	岩橋	佐々木	岩橋	金
	3診	金	古林	山名二郎	山名二郎	山名二郎	山名二郎
	6診	…	角南/大本	古林	古林	…	古林
	7診	…	…	…	…	…	黒瀬(第4)
	治験	全医師	全医師	全医師	全医師	全医師	全医師
	内視鏡	井上/齋/芹川	齋	角南	角南	金	井上
午後	2診	14:30~18:00 山名征三	14:30~18:00 古林	14:30~18:00 岩橋/古林	休診	14:30~18:00 金(肝臓外来)	14:00~17:00 山名二郎
	婦人科	14:30~17:30 高原	…	14:30~17:30 高原		14:30~17:30 高原	…
	内視鏡	…	…	…		山名	…

- 当院は待ち時間短縮のため午前中の診療は予約制となっております。
- 水曜日の午後は1・3週に限り、17:00~古林先生の診察となります。
- 救急・学会などにより担当医が予告なく変更になることがあります。

周辺地図



ヤマナ会 関連施設

広島生活習慣病健診センター

〒739-0002 東広島市西条町吉行2214
TEL 082-423-6662

通所リハビリテーション

〒739-0002 東広島市西条町吉行2214
TEL 082-423-6661 (担当 上田)

銀山町リウマチ内科クリニック

〒730-0016 広島市中区幟町14-14
広島教販ビル2F
TEL 082-228-6661

発行 広報委員会

〒739-0002 東広島市西条町吉行 2214

TEL 082-423-6661

FAX 082-423-7710

E-mail izika@hmh.or.jp

ホームページ <http://www.hmh.or.jp>

編集後記

院内の花も咲きはじめ、暖かい春がやってまいりました。おかげ様で広報誌『リウマチ・膠原病だより』を発行することができました。何かお役に立てれば幸いです。次回は7月に発行予定です。